

研究タイトル：

ESD の視点を取り入れた英語授業モデルの実践的研究



| | | | |
|-----------------|---|---------|--------------------------|
| 氏名： | 市川 裕理 / ICHIKAWA Yuri | E-mail： | ichikawa@toyota-ct.ac.jp |
| 職名： | 准教授 | 学位： | 修士(教育社会学) |
| 所属学会・協会： | 全国英語教育学会 | | |
| キーワード： | 英語教育,ESD,アクティブ・ラーニング | | |
| 技術相談 提供可能技術： | <ul style="list-style-type: none"> ・ESD の視点を取り入れた授業の紹介 ・英語授業でのディベート実践 ・英語授業法研究 | | |

研究内容：

(1) 英語教育における ESD の位置づけ (ESD に関わる言説研究)

英語教育において ESD を実践する際に、その基本理念が英語教育目標としてどのように具体されるのかを、これまでの ESD 実践例（主として国際交流、英語授業）をもとに明らかにする。また、他教科での ESD 実践例の先行研究を通して ESD 実践における知を再検討する。それによって、教科にかかわらない共通の視点と英語教科特有の視点の有無を明らかにする。

(2) ESD 実践するための Learning Community 形成とその効果 (Active Learning の促進)

英語教育の目標である「コミュニケーション能力の育成」には、自己表現の機会と相互理解の促進を実現する Learning Community の形成が不可欠である。これは、ESD で重視される「協同学習」と同義である。ここでは、ディスカッション、ディベート、ロールプレイなどの授業活動を通して、どのように Learning Community が形成されるかを検証し、それらの協同学習によってどのような効果が得られるのかを明らかにする。

(3) ESD 実践による学習者の変容の分析

ESD の視点を取り入れた授業を行うことが、学習者の英語能力（特に Speaking と Writing）の向上とコミュニケーション能力の向上にどのような効果があるのか明らかにする。また、学習者の異文化理解に対する意識がどのように変化するのか、協同学習によって形成された Learning Community が英語学習に対する態度にどのような影響をもたらすのかを調査し、明らかにする。

(4) ESD の視点を取り入れた英語授業モデルの提示

英語教科書のトピックを分類し、どのようなトピックにはどのようなアプローチが可能であるのかを検証する。また、単元の目標設定とトピック、そして授業活動の効果的な組み合わせを示す。さらには同じ分類のトピックでも、学習者の段階（年齢や習熟）に合わせて、より発展的な取組が可能であるか検証する。それによって、より汎用性の高い ESD 英語授業モデルの提示が可能となる。

提供可能な設備・機器：

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |